

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373600455		
法人名	有限会社 フクダ		
事業所名	グループホーム こすもすの家		
所在地	岡山県美作市真加部1385-1		
自己評価作成日	平成25年12月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3373600455-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成26年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御本人の意志を充分尊重し、その人らしく生活を送っていただけるように介護(支援)を行っています。入居者の方々の体調管理、水分補給をしっかりと行い、日々を元気に生活していただけるようにしています。入居者の方々が、季節を感じとれるように季節ごとの行事を取り入れていきたいと考えています。レクリエーションや生活リハビリテーションを取り入れ楽しく生活を送れるようにしていきたいと考えています。ゆったりとした時間の中での生活を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年7月に美作市では最初に設立した伝統のあるホームであり、11年の長いグループホームの歴史を築いたことになる。この地で先代から医療福祉を仕事で個人でこの地の住民の健康推進に寄与してきたことから地域の人々から高い信頼を得ており、社長は在宅生活を支援するデイサービスやヘルパーステーション等の事業を始めグループホームを営み、地域密着型の介護事業を展開してきた。職員も地域に近い人が多く高齢者の生活の支援に愛情を注ぎ皆頑張っている。現在は女性2人が管理者として自己評価を理解し、認知症ケアの重要性を認識して頑張っているため今後に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティング時に再確認し実践につなげている	「その人らしく輝いて」の理念は代表者の強い思いの表出で、ホーム設立して10年経過した現在も全くぶれることなく、日々のケアの根底にある。自分達でも目標を作成して皆で取り組んでみたいとの意欲的な発言もあった。	今回の自己評価は2つのユニットの管理者が相談して作成したが、今後は職員達にも働きかけて皆で取り組んでみようと考えている。職員のスキルアップにもなるので、是非取り組んでみよう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり地区の保育園や小学校との交流をしている	地域医療に貢献した診療所をベースに生まれたホームなので、元々地域に受け入れられる素地がある。地域幹線道路横、すぐ目の前は中学校で、地元集落の中に位置する立地条件にも恵まれ、無理のない自然な交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員、愛育委員、老人会、地区の住民の方に参加をしていただき、入居者、入居者の家族を交えて、認知症の話聞いていただき理解を求めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い現状報告等を行いそこで出た意見を参考に次の介護サービスの向上の参考にしているまた、地域活動の情報を得て、入居者の参加につなげている	愛育委員、民生委員、老人クラブ代表者、市の高齢福祉課担当者、地域包括支援センター職員、利用者、家族等が出席して、定期的に運営推進会議を開催し、ホームの現状報告等をして相互理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に相談したり運営推進会議に参加していただき意見を聞いて協力関係を築くようにしている	市の担当者は、毎回ホームの運営推進会議に出席しているので、ホームの実情は把握できている。敬老会や認知症キャラバンメイト等の案内があり、入所者の紹介もある等、よく連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会へ積極的に参加をしているまた、ミーティング時に例題を出し勉強会を行っている	運営推進会議でも虐待に関するニュースが話題になり、皆で話し合った。毎年研修に出席し、全職員に伝達し共有している。ヒヤリハット事例も公開し、気がかりは申し送りして、皆で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ積極的に参加をしているまた、ミーティング時に例題を出し勉強会を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ積極的に参加をし、後見人に対し報告、連絡、相談を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い納得していただいた後に契約書にサイン、捺印をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開いて家族の意見を聞く場所を設けているまた、運営推進会議にも参加の声をかけを行っていてそこで出た意見や要望を運営に反映させている	何かあればその都度家族と相談し、電話ノートにも記録して、職員間で情報の共有を図っている。運営推進会議には家族参加もあり、毎年家族会も実施しているので、公の発言の場も提供できている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを開き職員の意見や提案を聞き運営に反映させている	職員は近隣地域の人で、長く勤めている人が多い。ホーム近くには同一母体法人の事業所が隣接し、代表者は毎日ホームに来て、利用者や職員と関わっているため、現場をよく知っている。気がかりはその都度相談できる体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が介護を行いやすいような職場環境を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護の力量を見ながら研修会への参加を促しているまた、外部より実習生を受け入れることにより実習生を指導しながら自らスキルアップする機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域施設交流会を開き勉強会や意見交換などを行って相互にサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人に困っていること不安なこと要望を十分に聞きながら安心して生活できるような関係作りをしたうえでサービスの提案を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族から困っていること不安に思うこと施設に対する要望など十分に聞いたうえで施設において出来ることなどを説明し安心していただけるサービスにつなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時本人にとって何が必要かを本人家族と話し合い必要とする支援は何か見極めて他のサービス利用も含めた対応を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が本人と一緒に出来ることを探したうえで出来ることはなるべく一緒に行い生活を共にするようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と色々なことを相談しながら入居者本人の支援をしているどんなことでも家族と相談し信頼しあい家族と共に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、同級生、近所の方々の面会、訪問があったり、時には馴染みの場所にドライブに出かけたりしている	「おめでとう、今年もよろしく」携帯電話で新年の挨拶を交わす人も居た。地元出身の利用者が殆んどなので、地域行事に参加すれば「やあ、元気にされとるなあ」と声がかかる。日常的に大きな馴染みの輪の中で生活できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で世間話をしたり、レクリエーションや家事を一緒にしたりして利用者同士の関わりをもっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもこれまでの関係を大切にしながら必要に応じて支援や相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意志に沿った暮らしをしてもらっている困難な場合、なるべく意志に近い形で生活をしてもらえるように心がけている	「何かしとる方がええ」喜々として洗濯物を畳む手伝いをする人も居れば、「私はもう苦勞は卒業した。これからは遊んで暮らす」とマイペースの人も居れば、部屋でリハビリをしてもらったり、自分の好きなパズルをする等、一人ひとりのニーズを確かめている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室内に自宅で使っていた馴染みのものを置いたりしてなるべく生活環境が変わらないようなサービスに努めている、環境に対応できないときは少しでも慣れていただけるように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の身体状況、心身状況に合わせた生活を送ることや、毎日の身体状況、心身状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のミーティング時にミニカンファレンスを行い本人、家族の意見、要望を取り入れたり、職員の意見などを反映させ、介護計画を作成しているまた、必要に応じてカンファレンスの場を設けている	本人・家族の話をよく聞いて、それぞれの職員が把握する段階を経て意向を汲み取り、プランにつなげていた。全職員で様子を見ながら検証し、ケアの項目を定め、モニタリングをしながら定期的には年1回プランの見直しをしている。	高齢化や重度化が進み、心身共に自分の生活の満足度を得るために何を支援してあげたら良いのか出来るだけ具体的な目標を掲げてあげられるよう心掛けてもらいたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入し日々の気づきなど職員間で情報を共有しながら介護を行い介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しての対応には努めている、サービスの多機能化について本人や家族と相談しながら対応できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺ではあるが地域資源を取り入れるよう努めているが、地域資源を把握できていないのが現状である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院を受診したり、施設のかかりつけ医の往診が2週間に1度行われている	基本的には家族に受診介助をお願いしているが、困難な場合が多く、何かあれば対応してもらえる協力医を確保する等、万全の体制が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護を受け入居者の健康状態を伝え相談しているまた、日々の関わりの中で身体の変化があった場合看護師に相談し病院受診などの対応をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護支援情報提供表にて病院側にその方の情報を細かく提供したり、病院にも度々訪問し状態を確認しながら病院との関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化時の対応、看取りについて事業所で出来ることを十分に説明し家族には同意書に署名・捺印をもらっている、医師から終末期が近づいてきたと言われた場合再び説明を行っている	現在までは該当するケースがなく、ホームでの看取りの経験はないが、本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなければ、ホームとしては出来る限りの支援をしたいと考えている。訪問看護ステーション協力医など、ターミナルに向けた体制づくりもできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員は応急手当や初期対応の講習などを行っているまた、ベテランの職員が指導し実践できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルにそって全職員が避難の方法を身につけている、地域の消防団の方にも施設の中の避難経路についての確認もしていただき協力体制ができている	消防署の協力を得て、隣接する同一母体法人の事業所と合同の避難訓練も実施している。運営推進会議では、歩けない人の避難方法について話し合った。ホームの前の中学校が地域の避難場所なので、いざという時も安心である。	運営推進会議で避難方法などについての話し合いは出来ているが、さらに一歩踏み込んで、避難訓練と運営推進会議を同時開催してみてもどうだろう。より具体的な議論が出来そうだ。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉かけや対応に努めている	「おいで」と猫を抱き上げ膝に乗せて目を細める人がいる。彼女は愛猫と一緒にホームに来た。「この絵はわしが描いた」と壁に掲示した自分の作品を誇らしげに教えてくれる人も居る。「その人らしく」ホームの理念が体现できていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したりできるように声かけをしたりして働きかけをしている、本人がなかなか意志決定ができない場合が多いので職員が協力し少しでも意志決定ができるよう働きかけもしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに沿った生活ができるよう心がけてはいるが時折職員のペースになってしまう場合があるので注意している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝自分の着たい服を選んでもらったり整髪、お化粧をされる入居者も居られる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの手伝いができる人には一緒に作ってもらったり配膳、下膳ができる人には手伝ってもらう	「お味どう？上手に巻き寿司巻いてくれたものね。お汁おかわりあるよ」と出来る人は手伝って、地産地消の旬の食材を活かして作った昼食を、利用者・職員一緒に談笑しながら食べていた。「あら、豆が逃げたね」とこぼれた豆をさり気なく始末する職員の声掛けも優しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあつた食事量、水分の調節を行ったり好みの飲み物を提供したりしている、硬い物などは刻んだりして食べやすい状態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夜2回口腔ケアを行うよう声かけをしている総義歯の方は夜間洗浄剤で朝まで消毒している、食後はお茶を飲んでもらうよう声かけをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人にあった定期的なトイレ誘導を心がけているなるべくトイレでの排泄を促すようにしている	「赤い暖簾がトイレだよ」ホームに来てトイレの場所に迷わなくなり、失禁がなくなった。家では不潔行為のあった人や、お尻かぶれのひどかった人も改善する等、良くなった事例は多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事を調理したり、しっかり水分補給をしてもらったりしている、少しでも歩いたりしてもらい運動につなげている、それでも排泄につながらない場合には薬の服用で調節する場合もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように支援している、本人の希望に沿った入浴を心がけてはいるが時々スタッフの都合での入浴になってしまう場合がある、希望により夕食後の入浴もおこなっている	その人それぞれのこれまでの生活スタイルに合わせて入浴時間帯も工夫しながら、希望があれば毎日でも入浴できるよう支援している。入浴タイムはマンツーマンのコミュニケーションの機会と考え、大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者一人ひとりの薬について理解しており、薬を手渡し服用したかまでしっかり確認している、病状の変化に対しても充分確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあった役割や分担を決めて楽しみごとをつくり気分転換に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日はなるべく外に出られるよう支援している地域の行事にも積極的に参加させてもらい地域への外出もするようにしている気分転換にドライブに出かけたりもしている、家庭菜園も積極的に作業されている	桜・つつじ・菜の花等の花見や季節の行楽、とんどや秋祭り、運動会等の地域行事、寿司や喫茶店等の外食に、全員参加や希望者だけの個別支援といったその時々状況に合わせ、積極的な外出支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で金銭管理のできるかはしてもらっている、そしてご自分の好きなものを職員に買ってくるよう頼まれる、しかし、ほとんどの方がご自分で金銭管理ができないのでこちらで管理している状態である		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由なのでできる範囲内でやっていただけるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には入居者が混乱を招くようなものは置かないようにしている、室温・湿度には特に注意している、季節感のある飾り物などをし楽しめるよう空間作りを心がけている	両ユニットをつなぐウッドデッキのベランダで、気持ち良さそうに日向ぼっこする猫を見て、猫好きの人は目を細める。一段高い畳の間で張り切って洗濯物を畳む人も居る。季節感あふれる掲示物や利用者の写真を飾った廊下はまるでギャラリー。共同空間をうまく活用できている。	リビングルームのテーブルに利用者が座っている方々の姿に接すると、身体的な不自由さがあることを感じさせない事が多い。そして人が席を離れるのを見て車椅子の人が多い事に驚くことがある。テーブルに居る時は座椅子に座ることが良いのではないのでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で気のあった人同士がソファに座って話をしたり個人が思うような場所で生活している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室には、使い慣れた物を置いたり自分の趣味の物を置いたりして住みやすい工夫をしている(使い慣れた筆筒、写真、テレビ、ぬいぐるみなど)	入口には立派な木の表札を掲げ、これぞ我が家の風情が漂う。各居室クローゼットは備え付けで、窓からの眺めも良く明るい感じがする。冷蔵庫や家具、アルバム等を持ち込む人も居て、その人らしい部屋になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく「出来る事」「わかること」はしていただき安全に生活が送れるよう支援している		